グルマーイ・チッドヴィラーサーナンダについての熟考

グルの言葉の力

レオナルド・ルッソ

ドイツのハイデルベルクで開催されたグルマーイとのインテンシヴで、シャクティパート・ディークシャーを受けた数カ月後の 1989 年1月、私はもう一度グルマーイのいる所に居たくて、グルデーヴ・シッダ・ピートゥに行きました。その神聖な場所のシャクティに満ちた環境でアーシュラムの日課に参加し、私は一日中、深く喜びにあふれ、光に満ちた境地に浸っていると感じました。

しかしある日、自分には価値がないという不安な感情が内側から湧き上がってきたのです。その感情は家でやっている大きなプロジェクトに関係していることが分かっていました。私はその仕事に対して多くの疑いを持っていました。心の中のしつこい重苦しさが、私にその状況に直面するよう駆り立て続けていました。そしてとうとう私は、グルマーイに直接導きを仰ぐことにしました。私がじかにグルマーイと話すのは実際初めてだったので、私は自分が言いたいことを極めて明確で簡潔にしたいと思いました。そこで、私は自分の質問を注意深く準備し、ある朝のダルシャンの時、準備ができたと思いました。

一歩一歩ダルシャンの列を進んでいると、私はグルの愛の内なる聖域に入って行くように感じました。自分の番が来ると、私はお辞儀をして話し始めました。私は自分のプロジェクトについて説明し、それを完遂させることができるか疑問です、と言いました。グルマーイはとても注意深く聞きながら、話している私の目をのぞき込んでいました。まるで私の存在の深い部分を見ているようでした。それから、強く静かな声で、「情熱をもってやりなさい（Do it with enthusiasm）」と言いました。それだけです。四つの単語――単純で、思いも寄らない命令――でした。

私は、内側深くで響くグルマーイの言葉の力を感じ、そして彼女は私のジレンマに打ち勝つ鍵を与えたのだと確信を持ちました。しかし、彼女の答えは私を当惑させるものでもありました。当時私は、情熱とは外側の楽しい状況によって引き起こされる、自然発生的な興奮のようなものだと理解していました。そして私が彼女に話したプロジェクトは、全く興奮するようなものには思えなかったのです！

家に帰り日常生活に戻ると、私は意識的にグルマーイの教えに取り組み始めました。朝の瞑想で座っている間、「情熱をもってやりなさい」と繰り返しました。また、その教えを紙に書き、プロジェクトで働いている間コンピューターの所に置きました。すると私は、ゆっくりですが確実に、グルの言葉を自分の気づきの領域に植えるという単純な行為が、私をエネルギーと強さに満ちた内側の静かな空間に触れさせていることに気づき始めました。その領域から、より執着を持たず、前向きにプロジェクトを見ることができたのです。

以前は対処することができなかったプロジェクトのそれぞれの部分が、自然に正しい位置に落ち着き始め、数カ月後にプロジェクトは完了しました。私は自分がした決断に幸せで穏やかな気持ちでした。グルマーイの教えに従うことによって、私は束縛のない内なる空間につながったのだと気づきました。そこでは問題は問題として認識されることがなくなり、より活動的、創造的、情熱的な形で向き合えたのです。

グルマーイの教えは、精神修行を含めて、私の人生のさまざまな側面への取り組み方を評価する基準になりました。修行において、最初に困難だと思うと「諦めてしまう」という、潜在的な習慣があることに気づき始めました。このことは、例えば私の瞑想にも影響していました。瞑想の時間に無駄に終わるように思えると、私はすぐ諦めて、何か他のことをしていました。私は思い出すことを実践する中で、諦める代わりに、グルマーイの「情熱をもってやりなさい」という言葉を思い出しました――そして、自分の修行を続ける意図を新たにし、さらなる深みに行くようになったのです。

グルマーイの教えに鼓舞され、私は今、自分の日常の仕事や人との関わりにおいても修行においても、発見と誠実な興味の態度を身に付けようとしています。これを注意深く意図的に行う時、私は情熱の新しいニュアンスを体験します。そして、慣れ切った状況に新鮮な「初心者のマインド」を持ち込むと、物事への取り組みに、さらにエネルギーと軽やかさがもたらされることに気づきます。

歳月を重ねるにつれて明確になってきたことは、「情熱をもってやる」時、内側の変化が常に起こり、体験と理解の新しいレベルへと私を開いてくれるということです。そのような時、私の人生でグルの恩恵が常にあること、そしてグルの言葉に確実な変容の力があることに、私は驚きと感謝でいっぱいになります。

© 2020 SYDA Foundation®.著作権所有。